

上半期の総括と今後の経営方針

2013年11月8日

代表取締役 細窪政

(ご注意)本資料に記載された事項は、資料作成時点での当社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではありません。また、今後予告なしに変更されることがあります。本資料に含まれる意見や予測などについては、様々な要因の変化により、実際の業績や結果とは大きく異なる可能性があることをご留意下さい。また、本資料は情報の提供のみを目的としており、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的とするものではありません。なお、本資料内の数値は全て連結ベースにて表示しております。

- 新規VC/PE投資： 14件 2,676百万円
（うち中華圏のファンド： 9件 1,685百万円）
- メガソーラー関連投資： 1件 498百万円
- 上場実績： 3件：台湾2件（Sunfun、TCl）、日本1件（株式交換）
- 主なEXIT実績：
 - Sinomed Holdings（中国、Trade Sale）
 - シュッピン（日本、市場売却）
 - Soon Soon Oilmills（マレーシア、M&A）
 - Epoch Chemitronics（台湾、市場売却）
- その他 EXITの一環として(株)ステムセル研究所株式を
(株)日本トリム（東証一部：6788）株式と株式交換

- 株式市場回復の効果で、上場株式を中心に営業投資有価証券の売却益の増加を見込む
- 円高是正により海外資産の為替評価含み損が解消され、自己資本の回復に寄与
- 海外投資家の日本に対する関心が、不動産、株式からメガソーラーにまで拡大
- 日中関係は、政治外交面の停滞をよそに、経済交流は急速に回復しつつある

今期の方針（2013年5月17日決算説明会資料より）

1. 「守り」から「攻め」へ
2. 通期の黒字化
3. 重点事業分野で相応規模のファンド組成実現
4. 新規事業の収益化
5. 国内外パートナー戦略の強化
6. 財務体質改善への取り組み

- Q1の大幅赤字から、Q2は四半期黒字に転換
(累計では赤字幅を縮小)
- 市場環境の回復により既存投資資産の売却によるCGが増加
- Q3及びQ4も現在の市場環境が続くという前提のもと、
3期ぶりの通期経常黒字、6期ぶりの通期最終黒字を目指す
- しかしながら、運用ファンド残高は減少傾向にあり、
継続的な黒字定着のためには新たな収益源の獲得
(新規ファンド設立、新規事業収益化)が絶対に必要

- 「日本向けクロスボーダーグロース投資ファンド」の組成は計画よりも遅れており、今期中に100億円以上でファーストクローズさせるという期初目標は未達に終わる可能性が高い
- 一方で、既存ファンドと同規模の後継ファンド組成に関しては一定のニーズがあるため、これらを着実に組成していくことが短期的には重要と捉え、ファンド設立方針を軌道修正
- 具体的には、国内では海外進出支援ファンド、海外では地方政府との共同ファンドを、30億円規模で設立することを優先
一方、将来の大型ファンド設立に向けた活動も継続する
- また、投資方針としては、「クロスボーダー」に偏り過ぎず
当社のネットワークを活用し「日本を含むアジア」の投資機会に幅広く取り組む

- ・「インカムゲイン志向型投資事業」の第一弾として、昨夏からメガソーラー事業への取組みを開始し、現在2案件が進行中
- ・福島案件は、大手商社系企業との協業が進捗
来期早々に発電開始となる公算が高い
- ・高知案件は、自己資金による工事に着手、期中の発電を予定
- ・上記2案件の実績をもって、今後も優良案件の発掘と
アレンジに注力し、投資家からフィー収入の獲得を目指す
- ・加えて、当事業からの長期的な安定収入を得るべく、
フィー収入額をエクイティ持分に充当しインカムゲインを得る
スキームを基本路線に、収益事業化を実現する
- ・その他、ESCO事業についても早期収益事業化に向けて
引き続き取り組む方針

1. JAIC投資先交流会の復活開催(12月18日)
2008年2月以来、ほぼ6年ぶりの開催
リッキービジネスソリューション(株)の協力
2. 中国地方政府との新規ファンド設立協議
山東省、青島市、烟台市など
3. 上場企業外交の活発化
資金調達、M&A、事業提携、海外進出、投資ニーズの発掘
4. 「フードセレクション2013」への協賛
地方銀行主催、リッキービジネスソリューション(株)共催